

2. 各自治体における取組概要 | 名張市 (1 / 4)

【A. 取り組みの全体像】

1.自治体の概要							
	自治体名		名張市	担当部局名	福祉子ども部 地域包括支援センター	人口	76,177 (人) <令和5年1月1日時点>
	自治体内連携	庁内連携部局	環境、交通、農林、雇用等の関係部署				
		庁内連携内容 ※会議体、情報共有	高齢、障がい、児童、困窮、教育の各分野（分野エリア）で任命された5名のエリアディレクターがエリアディレクター会議を通して、関係部署や機関が行う支援方法の調整を行う				

2. 形成をめざす地方版連携PFの姿

従前の取り組み <small>※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等</small>	<ul style="list-style-type: none"> 以前より住民主体の地域づくり活動が盛んであった経緯から、平成15年に「地域づくり組織」を、平成17年に、地域の福祉サービスの拠点として「まちの保健室」を設置。平成27年に設置した「エリアディレクター」を含めて地域福祉教育総合支援ネットワーク(孤独孤立対策プラットフォームとしての機能を既に含む)として統合し、包括的に運用 	実現したい状態 <small>※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境</small>	<ul style="list-style-type: none"> 既に設立・運用している地域福祉総合支援ネットワーク(孤独孤立対策プラットフォームとしての機能を含む)でリーチできておらず、いまだなお行政の施策や取り組みにアクセス困難な方々を支援に繋がられている状態 既存のPFへ新しい参加者が加わることで、住民主体のプラットフォームが継続的に運営される仕組みが構築されている状態 孤独・孤立を抱えた人の防災や災害時支援について実施すべき事項が明確化されている状態 							
	<table border="1"> <tr> <td>調査</td> <td>・ 毎年度、高齢者を対象とした実態調査等を実施</td> </tr> <tr> <td>構想・方針</td> <td>・ 「住民が自ら考え、自ら行う」住民主体のまちづくり</td> </tr> <tr> <td>体制</td> <td>・ ①エリアディレクター②まちの保健室③地域づくり組織の3階層にわたる連携PFが存在し、それぞれのPFをリンクワーカーがつなぐ。</td> </tr> <tr> <td>実施</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 行政と15の地域づくり組織(住民主体)の意見交換の場であるエリア地域づくり代表者会議を1回/2月のペースで実施 あらゆる健康づくり・地域福祉活動の拠点であるまちの保健室を15地域に設置（'08年～'20年にかけて相談件数は約3倍に増加） </td> </tr> <tr> <td>評価・検証等</td> <td>・ 1年～数年に一度、3層からなるプラットフォームの関係者が一堂に会する全体会議あり（エリア会議）</td> </tr> </table>			調査	・ 毎年度、高齢者を対象とした実態調査等を実施	構想・方針	・ 「住民が自ら考え、自ら行う」住民主体のまちづくり	体制	・ ①エリアディレクター②まちの保健室③地域づくり組織の3階層にわたる連携PFが存在し、それぞれのPFをリンクワーカーがつなぐ。	実施
調査	・ 毎年度、高齢者を対象とした実態調査等を実施									
構想・方針	・ 「住民が自ら考え、自ら行う」住民主体のまちづくり									
体制	・ ①エリアディレクター②まちの保健室③地域づくり組織の3階層にわたる連携PFが存在し、それぞれのPFをリンクワーカーがつなぐ。									
実施	<ul style="list-style-type: none"> 行政と15の地域づくり組織(住民主体)の意見交換の場であるエリア地域づくり代表者会議を1回/2月のペースで実施 あらゆる健康づくり・地域福祉活動の拠点であるまちの保健室を15地域に設置（'08年～'20年にかけて相談件数は約3倍に増加） 									
評価・検証等	・ 1年～数年に一度、3層からなるプラットフォームの関係者が一堂に会する全体会議あり（エリア会議）									

3. 地方版連携PFにおける連携体制

連携先支援団体名	社会福祉協議会、地域づくり組織（住民自治組織）、警察、生協、医療機関、支援対象者関係機関等		
選出・打診時の工夫	それぞれの自主性を醸成するように働きかける	協議体（既設/新設）	エリアディレクター会議・地域づくり代表者会議
支援団体との連携内容	月に1回の頻度で催されるエリアディレクター会議において、事例共有や対処法に関する議論を実施。加えて、要支援者が確認された場合には、市役所が主導して関係者を集め、関係団体との調整を行って対応を進める。		

4. PF連携による価値や工夫_考え方

<ul style="list-style-type: none"> 市が直轄で15地区(学校区域単位)に地域づくり組織・まちの保健室を設置し、地域密着型の細やかな支援や情報収集を行う基盤を作った。 エリアディレクター・まちの保健室・地域づくり組織という機能が異なる3層のプラットフォーム(地域福祉総合支援ネットワーク)を運用している。 住民主体の地域づくり組織が地域課題を我が事とらえ、課題解決を図る取組が進展している。 持続可能かつより充実した取組を目指すために、市民の相談・アウトリーチのハブとなるまちの保健室を再デザインし、認知度や利便性を高める取り組みを実施していく。

【B.連携PFイメージ】

ヤングケアラー
生活困窮
いじめ

複合的な生活課題を抱える対象者

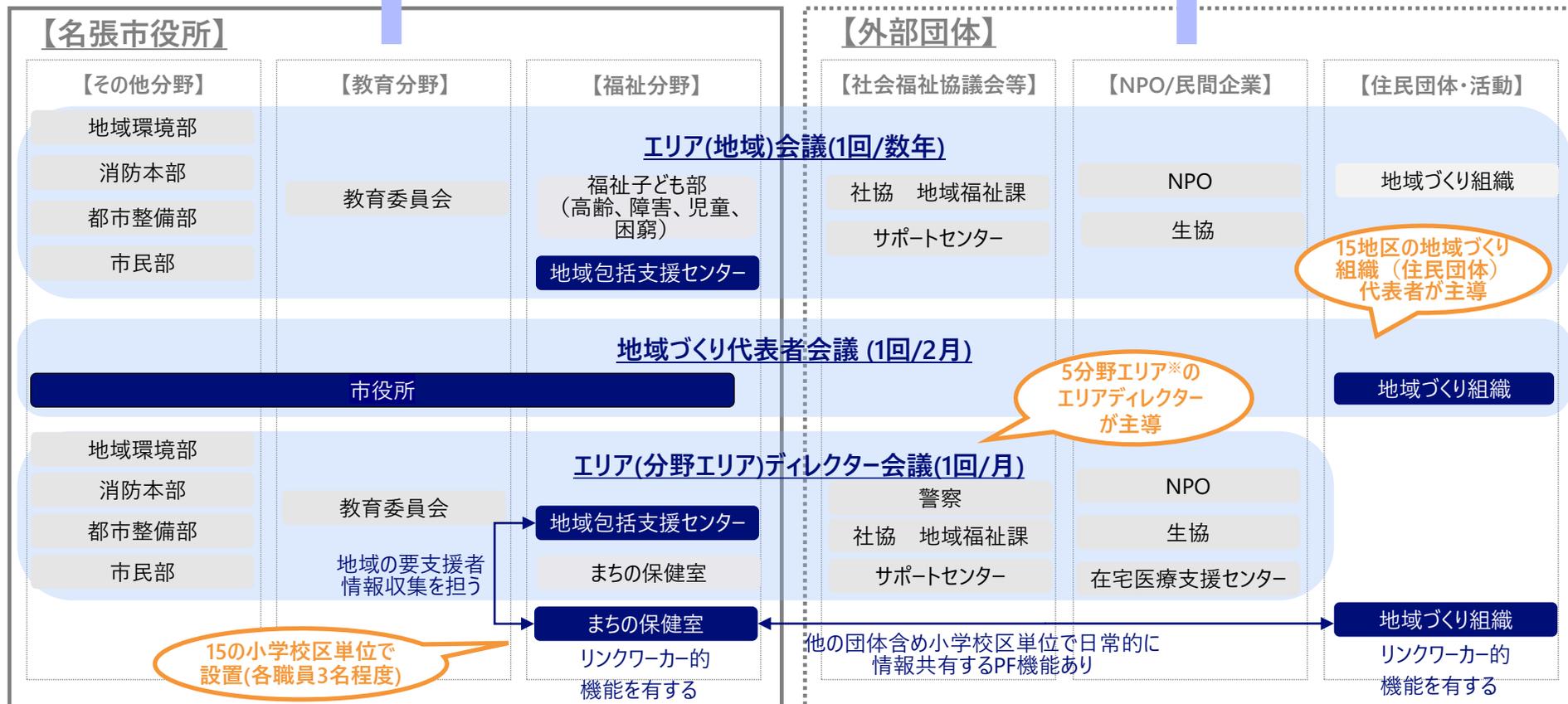
ひきこもり
認知症
障がい

多機関協働による包括的支援体制の確立

- ✓ 自立相談支援事業
- ✓ 就労準備支援事業等
- ✓ まちの保健室の設置

自治体との連携による支援体制の充実化

- ✓ 日常生活支援事業
- ✓ 在宅医療、介護連携による研修・相談
- ✓ 成年後見利用促進



※これらの会議体は以前(2015年度)から存在

2. 各自治体における取組概要 | 名張市 (3 / 4)

【C.試行的事業一覧】

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の
ポイント・工夫

- 40名程度のプラットフォーム関係者を集めてワークショップを行い、既存のプラットフォームでリーチできていない層の特定を行うことで、改善の方向性を明確にしたこと
- 15区ある市内の地区ブロックの1つを取り上げたワークショップを行うことで、孤独・孤立の問題をより具体的に議論できるようにしたこと

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先 (予算)
1 「まちの保健室」のデザイン及び地域共生社会の取組発信	<p>【事業概要】 健康づくり・地域福祉活動の拠点(プラットフォームの一機能)である「まちの保健室」をより身近で訪問しやすい窓口とするためのリデザインを行う。また、地域広報を活用して、「まちの保健室」のリデザインを含む名張市の取組みについて市民向けに改めて周知を行う。</p> <p>【制作物内容】 まちの保健室のロゴデザイン、広報webページ</p> <p>【部数・配付方法】 既存の市内広報物に合わせて全戸に配布</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題を抱えながらも支援に繋がることのできていない方がまちの保健室の存在を認識し、活用できる状態となることを目指す <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 参加者アンケートや、認知度について多様な手法候補を検討中 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和5年1月初旬から2月下旬まで 	<ul style="list-style-type: none"> ● Studio-L (600万円)
2 孤独孤立問題の共有化のための研修	<p>【事業概要】 孤独・孤立問題を取り上げた住民向け、市職員向けのワークショップの実施</p> <p>【ワークショップ内容】 住民向けワークショップ：孤独・孤立に係る問題が特に顕在化するケース(災害時等)を想定したディスカッションを実施(1回開催) 市職員向けワークショップ：平時からの孤独・孤立対策に関する講義・ディスカッションを実施(2回開催)</p> <p>【参加人数】 各40名程度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 孤独・孤立対策という視点から見たときの地域の状態や地域資源についての認識を深めることで、地域住民の平時からの問題対策意識を醸成する ● 孤独・孤立対策の重要性における市職員の理解度を高めることで、支援の機運を醸成する <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ワorkshop参加者の孤独孤立問題への理解度の向上(アンケート調査) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和5年1月初旬から2月下旬まで 	

7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ (あれば) を例挙

- 今後の人口減少・高齢化の一層の進行が見込まれている中、プラットフォームの基盤となっている15の地域づくり組織について、各地域の現状把握や将来予測を地域住民を巻き込んで行い、持続可能な組織の在り方についての検討を行う

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- まちの保健室職員からは、まちの保健室の認知度や利便性を向上させる取り組みに繋げることができたと高評価を受けた
- 市民へは今後市の広報誌等をもって公表していく

2. 各自治体における取組概要 | 名張市 (4 / 4)

(D.留意点)

